

第8回エキサイトよこはま22 懇談会

平成28年度の主な取組と 29年度以降の取組・検討事項

- 西 口
- 東 口
- 横浜駅周辺地区全体

西 口

- ・ **西口駅前空間の方針**
- ・ **西口地下街中央通路接続事業（馬の背解消）**
- ・ **中央西口、きた西口駅前広場**
- ・ **鶴屋橋架け替え工事**
- ・ **駅前広場の交通処理変更**
- ・ **（仮称）横浜駅西口開発ビル**
- ・ **国家戦略特区（きた西口鶴屋地区）**

西口駅前空間の方針

◇西口駅前空間の再編方針

～ 西口駅前に求められる“四大要素”～

横浜の玄関口として「人に優しい駅前空間」をつくる

スムーズで快適な
乗換えと待合い

①交通

待ち合わせをしなくなる
分かりやすいモビリティセンター



わかりやすく快適な乗換空間

- 情報システムの導入による誘導・案内
- わかりやすく快適に移動できる歩行空間
- 交通機能配置の再編

豊かなアクティビティが
高まる空間づくり

②歩行・滞留空間

多様な活動の展開による
まちの躍動感



賑わい溢れる公共空間

- 都市活動でにぎわう豊かな広場空間
- 映画のワンシーンのような待合せ空間
- 周辺地区を含めたエリアマネジメント

横浜駅西口の顔として
魅力ある空間

③景観・環境

広場空間と建物が一体となって創り出す
横浜アイデンティティ



横浜駅西口の顔の形成

- 「横浜の顔」と印象に残る景観づくり
- 周辺市街地や主要な通りからの視認性
- 公共空間と建物の連携による憩い賑い
- 東西や立体的なつながり、空間の奥行き

災害にも
安心安全な空間

④防災

来街者にも立体的で分かりやすい
安心安全ネットワーク



立体的で分かり易い歩行者空間

- 縦方向の動線の整理・視覚化
- 各レベルによる、周辺地区とのつながり
を意識した回遊性の高い空間づくり
- 避難場所として認知しやすい空間

官民一体となった空間づくりにより実現を目指す

西口駅前空間の方針

◇将来の西口駅前空間の目指す方向性

◇西口駅前空間の再編方針

横浜の玄関口として
「人に優しい駅前空間」
をつくる(案)

スムーズで
快適な
乗換えと
待合い

豊かな
アクティビティが
高まる
空間づくり

横浜駅西口の
顔として
魅力ある
空間

災害にも
安心安全な
空間

◇将来の西口駅前空間◇

「人に優しい」とは
快適性と活力が両立できる
「人」を中心とした空間
であること

◇西口で将来起こってほしいこと

各エリアで起こる様々な人の
アイディア・アクティビティ・出会い
が西口全体で循環する

西口将来像のイメージ

- 人のエネルギーを肌で感じる
- 24時間飽きない多様な過ごし方がある
- それぞれの距離感で水辺を楽しめる

横浜駅西口駅前は、「人に優しい駅前空間」として、まちとの「つながり」があり、自分らしい「ゆとり」が持て
皆で「たまり」たくなる、みんなのための「ひろば」を目指します

HUMAN
ENERGY
CORE

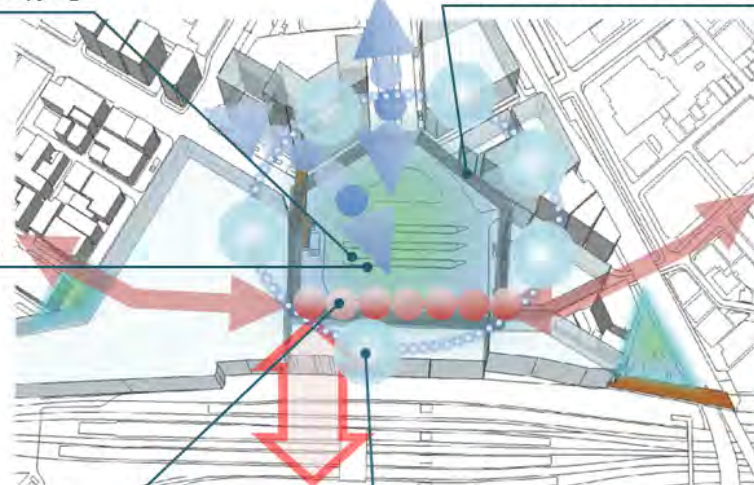
③都市の「ひろば」で活動を「育む」

④「都市の縁側」によりまちに「近づく」

②快適な交通結節点
により豊かさを「高める」

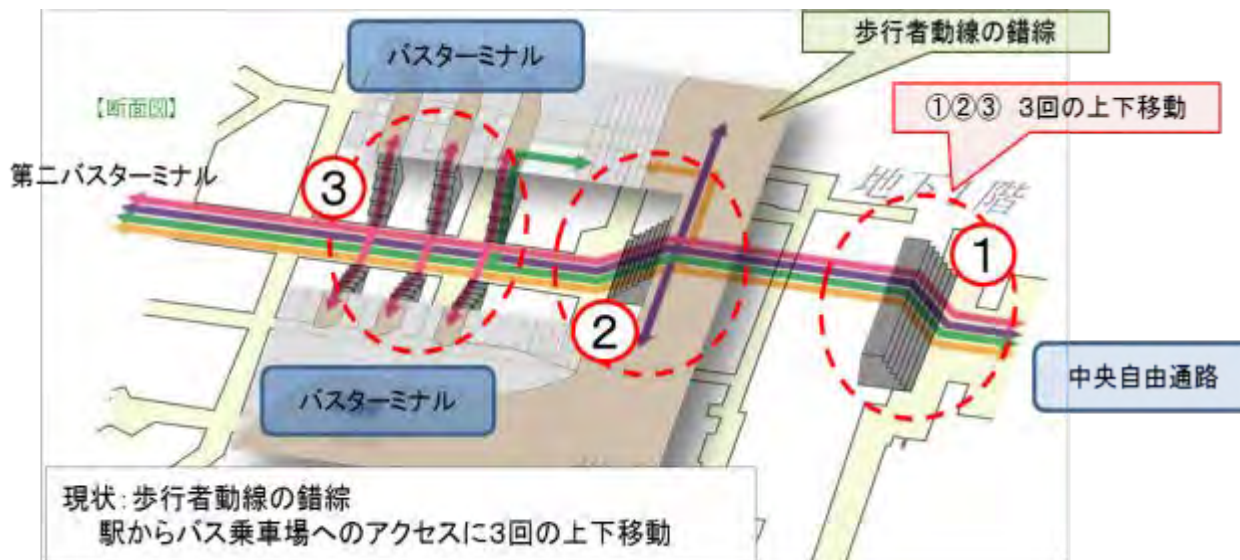
①「都市軸」と「ストリート」
により地域力が「循環する」

⑤コアにより回遊性を「つなぐ」

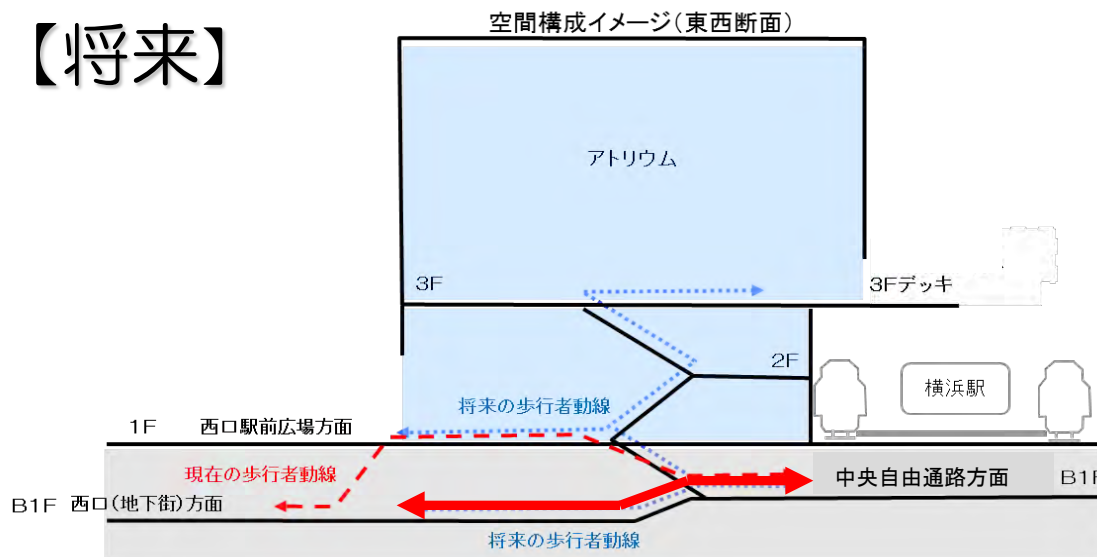


西口地下街中央通路接続事業（馬の背解消）

【現況】



【将来】

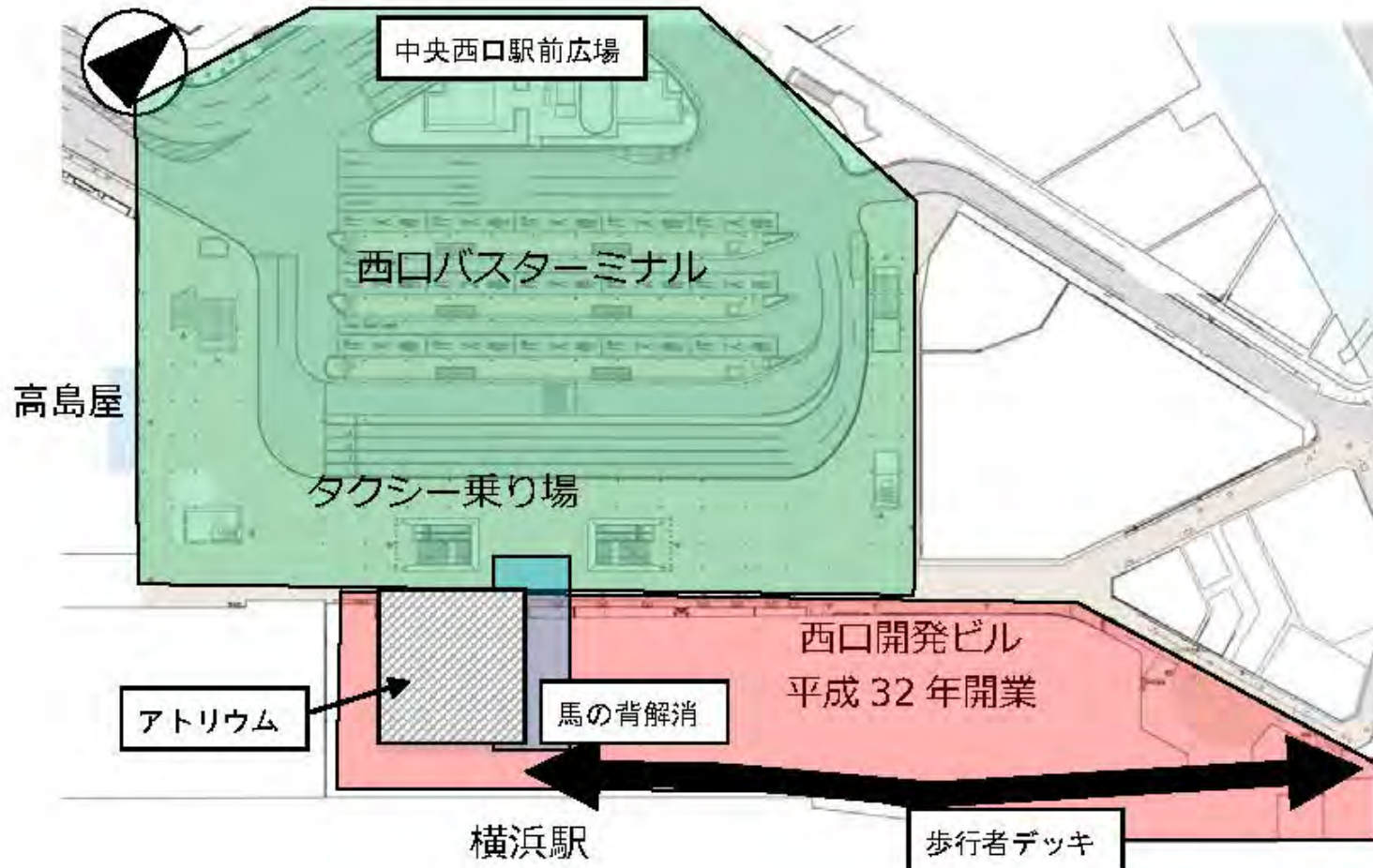


平成27年度 工事着手 平成32年 完成予定



状況写真（南側階段）
（平成28年10月供用開始）

中央西口駅前広場



- ・快適な歩行空間及び待合空間の創出
- ・公共交通機関同士の円滑な乗り換え
- ・イベントやオープンカフェ等による賑わいの創出

きた西口駅前広場



←西口開発ビル鶴屋町棟
きた西口鶴屋地区

歩行者デッキ

きた通路

水辺や橋詰の修景を中心
とした親水空間の整備

ターミナルコア

地下・地上・デッキ
を結ぶ昇降施設、
屋根の整備

西口開発ビル→

西口開発ビル

歩行空間の整備

- ・歩車道を一体的な設えに整備
- ・ガスガバナーの移設の検討
- ・護岸上を通行できるよう調整
- ・歩行者空間の確保について引き続き検討

帷子川分水路

鶴屋橋

将来のまちづくりにおける
歩行者空間等の創出

鶴屋橋架け替え工事

(橋梁架替イメージ)

(架替前)



(架替後)



期待される効果

(1) 治水安全度の向上

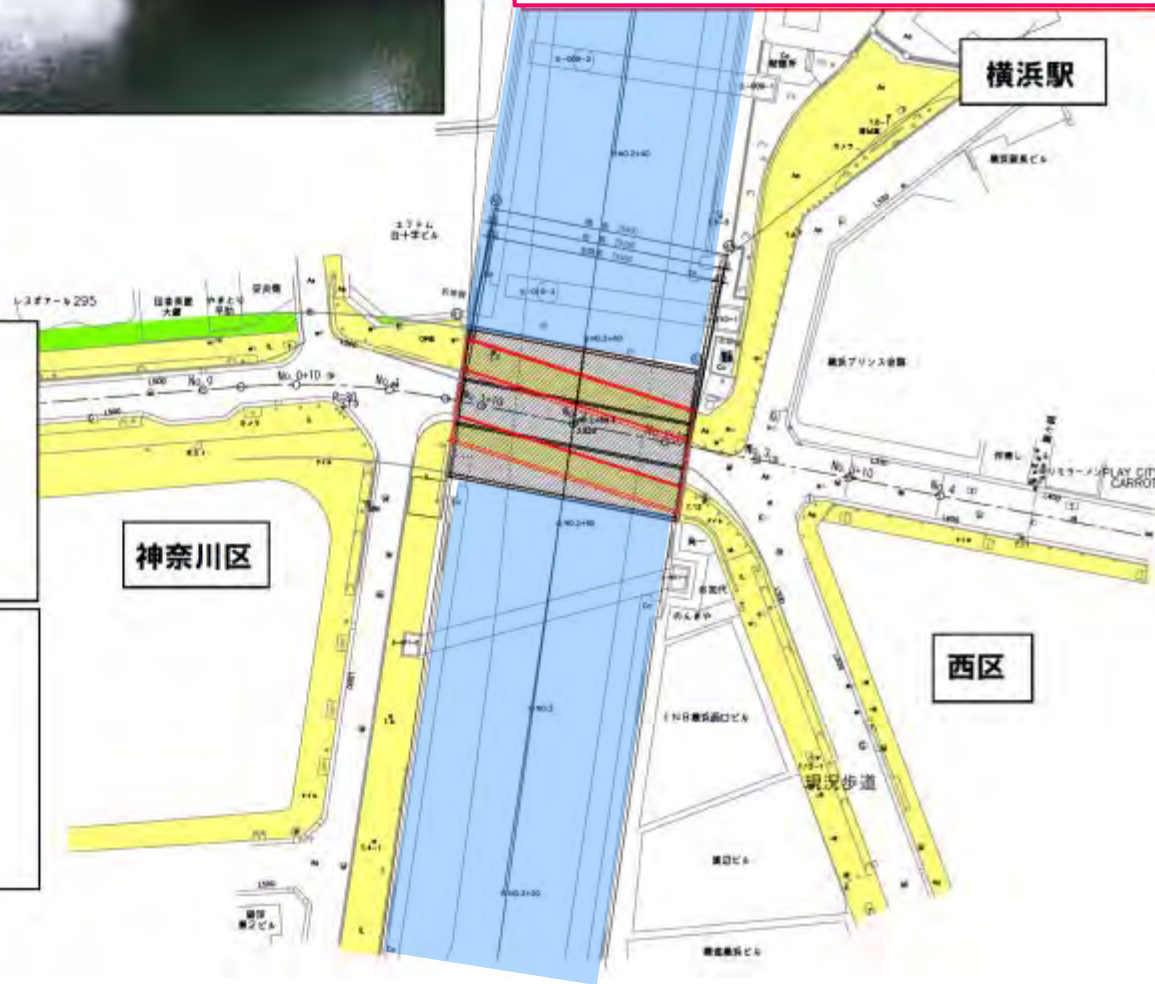
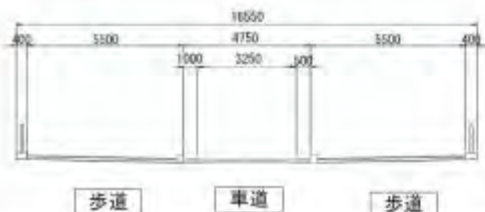
(2) 歩行環境の向上

(断面構成図)

(施工前)



(計画)



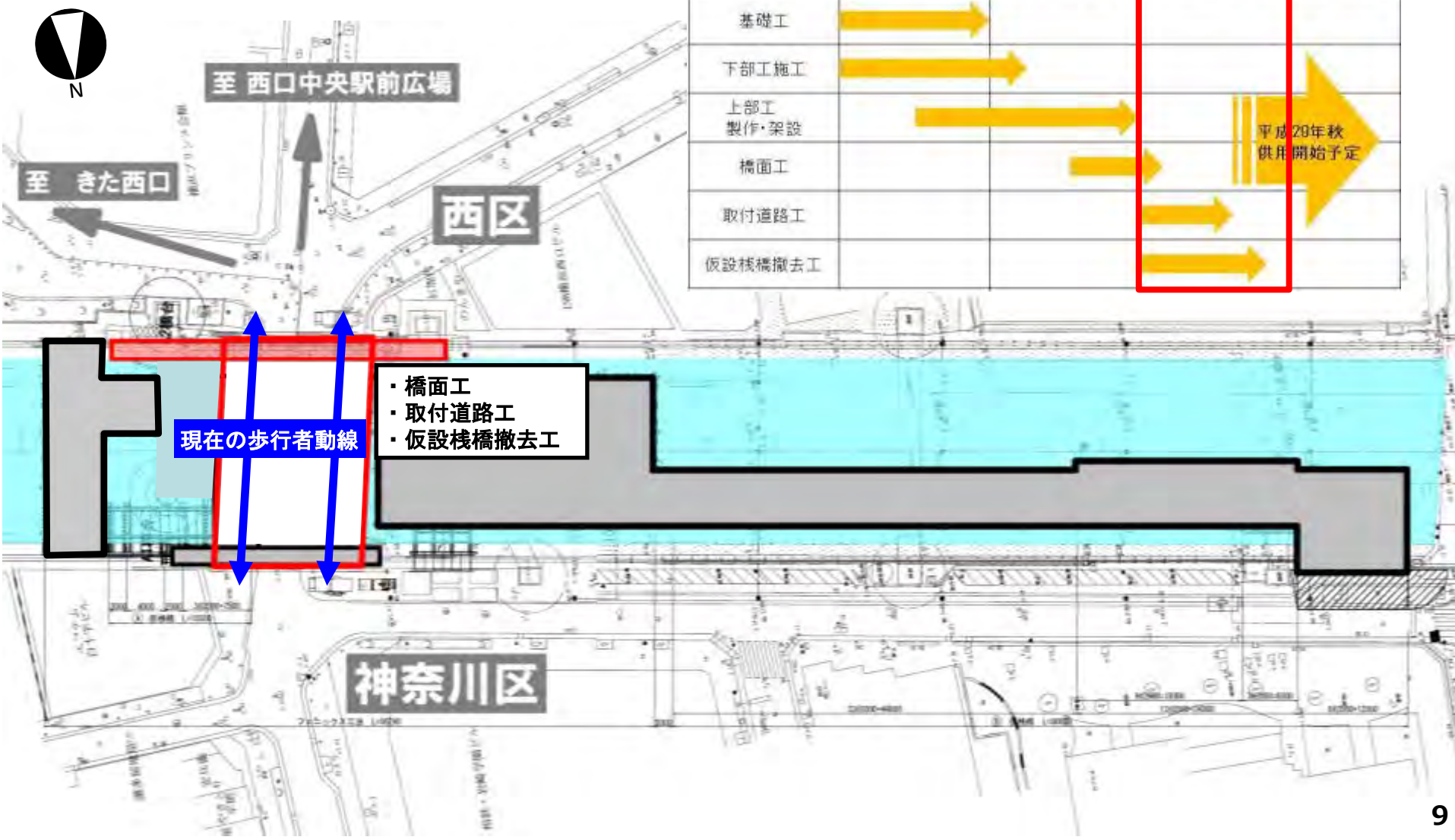
鶴屋橋架け替え工事

○ 29年度の工事内容

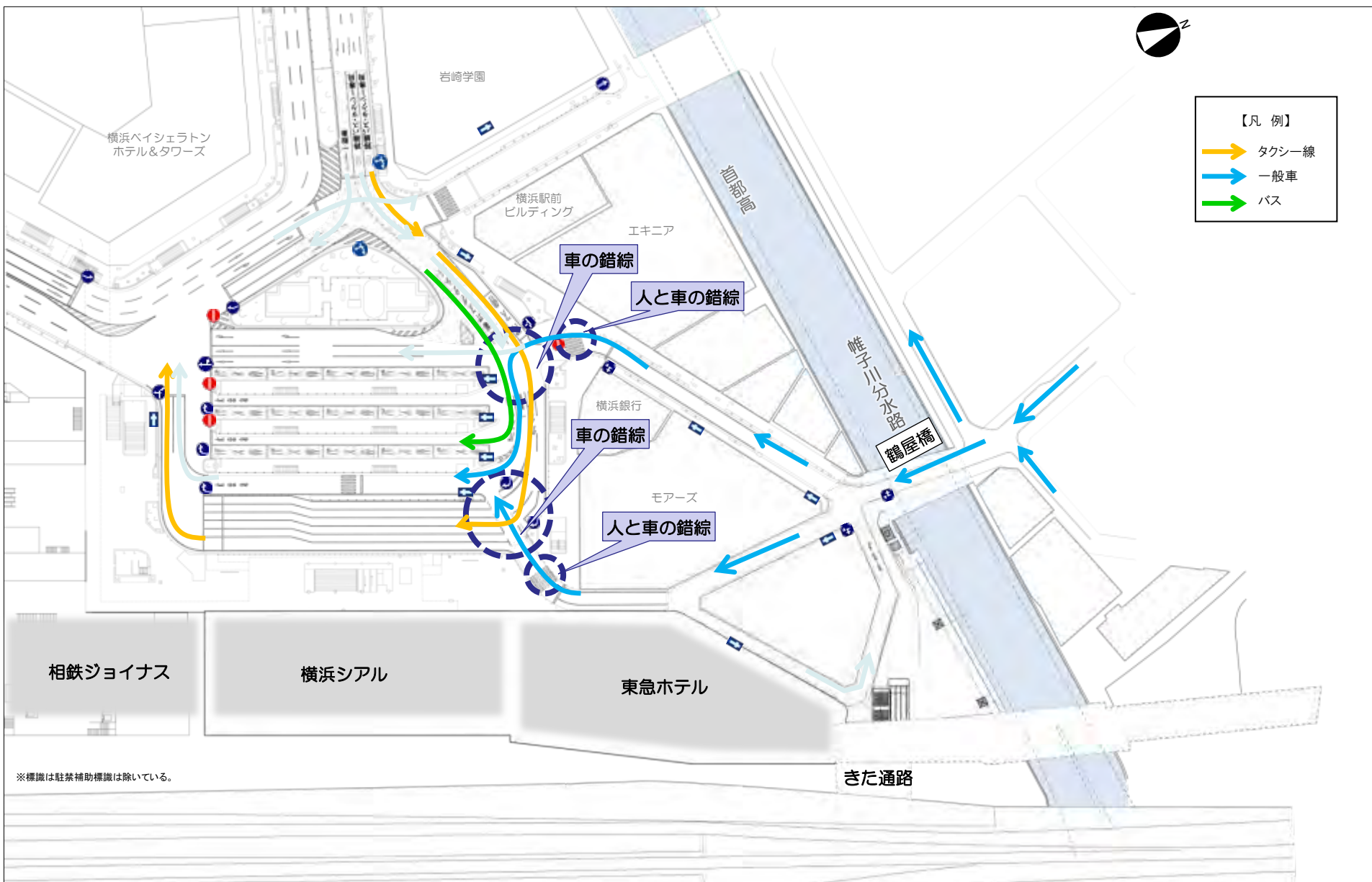
【概略工程表】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
基礎工	→			
下部工施工	→			
上部工 製作・架設		→		
橋面工		→		
取付道路工			→	
仮設棧橋撤去工			→	

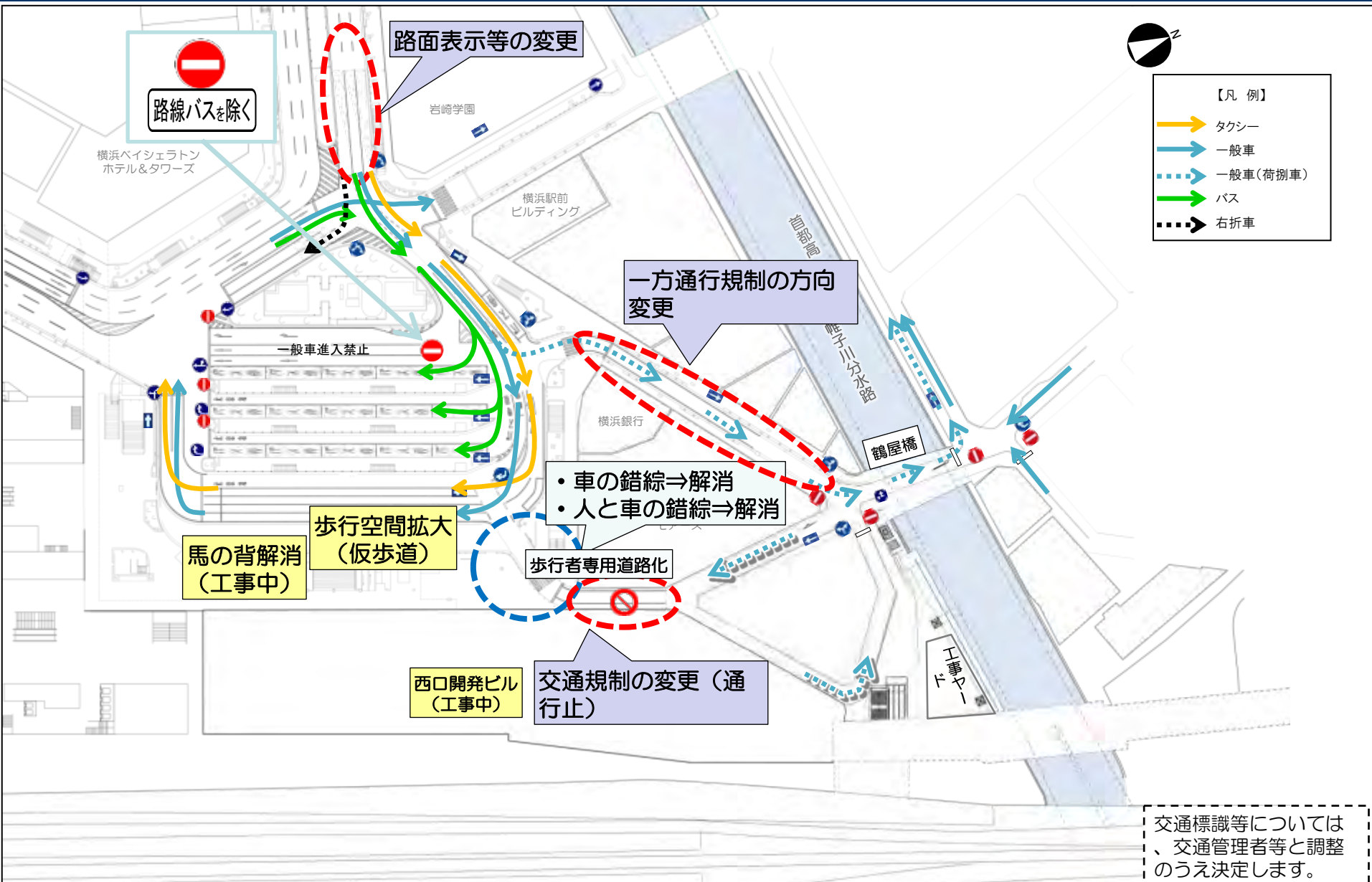
平成28年秋
供用開始予定



駅前広場の交通処理変更（鶴屋橋着工前）

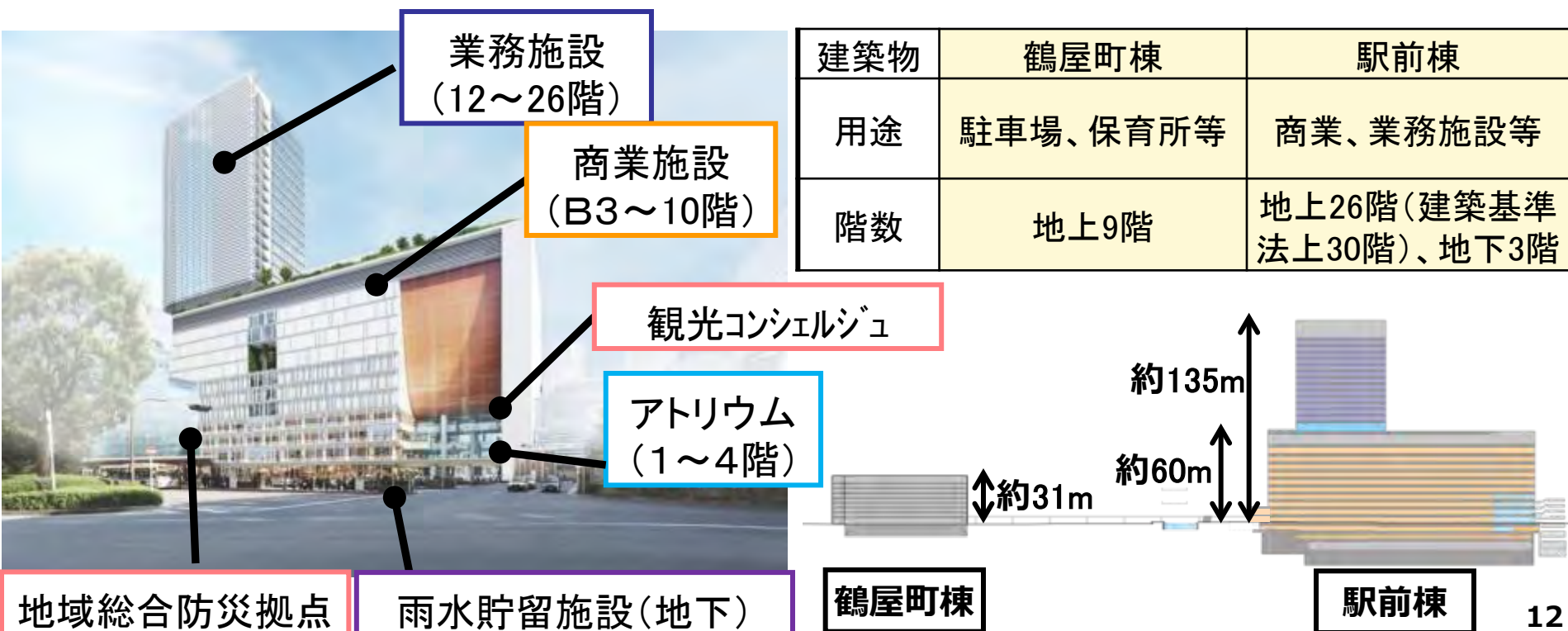


変更後（鶴屋橋供用時時点）



(仮称) 横浜駅西口開発ビル

- 都市再生特別措置法に基づく民間都市再生事業計画として、国土交通大臣の認定を受けました。（平成27年9月17日）
- 駅前棟が工事着手され、東京オリンピック・パラリンピックの前の完成を目指して工事が進められています。
 - ・駅前棟着工式 : 平成27年10月19日
 - ・鶴屋町棟工事着手 : 平成30年度（予定）
 - ・工事完了 : 平成32年（予定）



(仮称) 横浜駅西口開発ビル



アトリウム (イメージ)



線路側歩行者デッキ(イメージ)



状況写真 (H29.5撮影)

3階部分に整備される防災スペース（約200㎡）に災害対策用の拠点を整備する予定です。

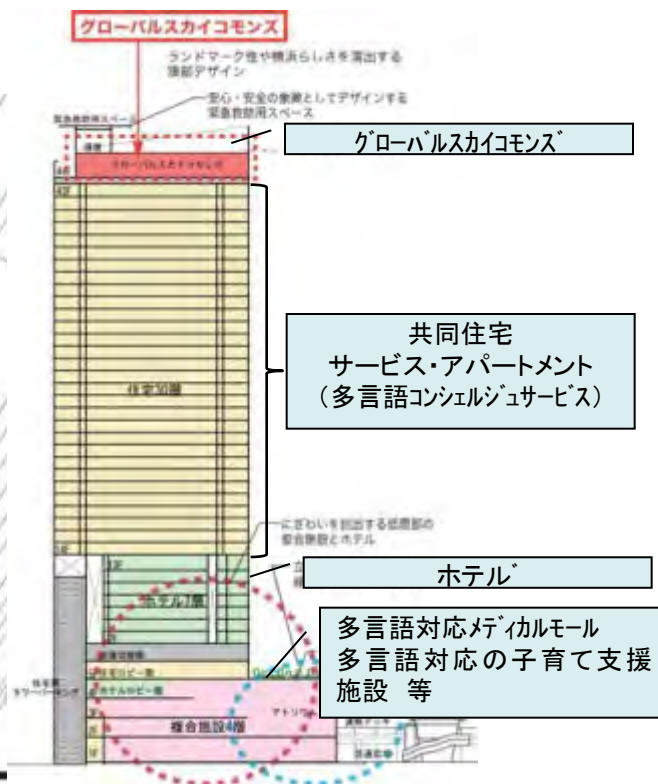
発災時は、市防災計画で設置が位置付けられている「横浜駅情報連絡本部」のスペース等として、また平時は「横浜駅周辺混乱防止対策会議（部会を含む）」のスペースなど、活用方法について周辺事業者の方々と検討しています。



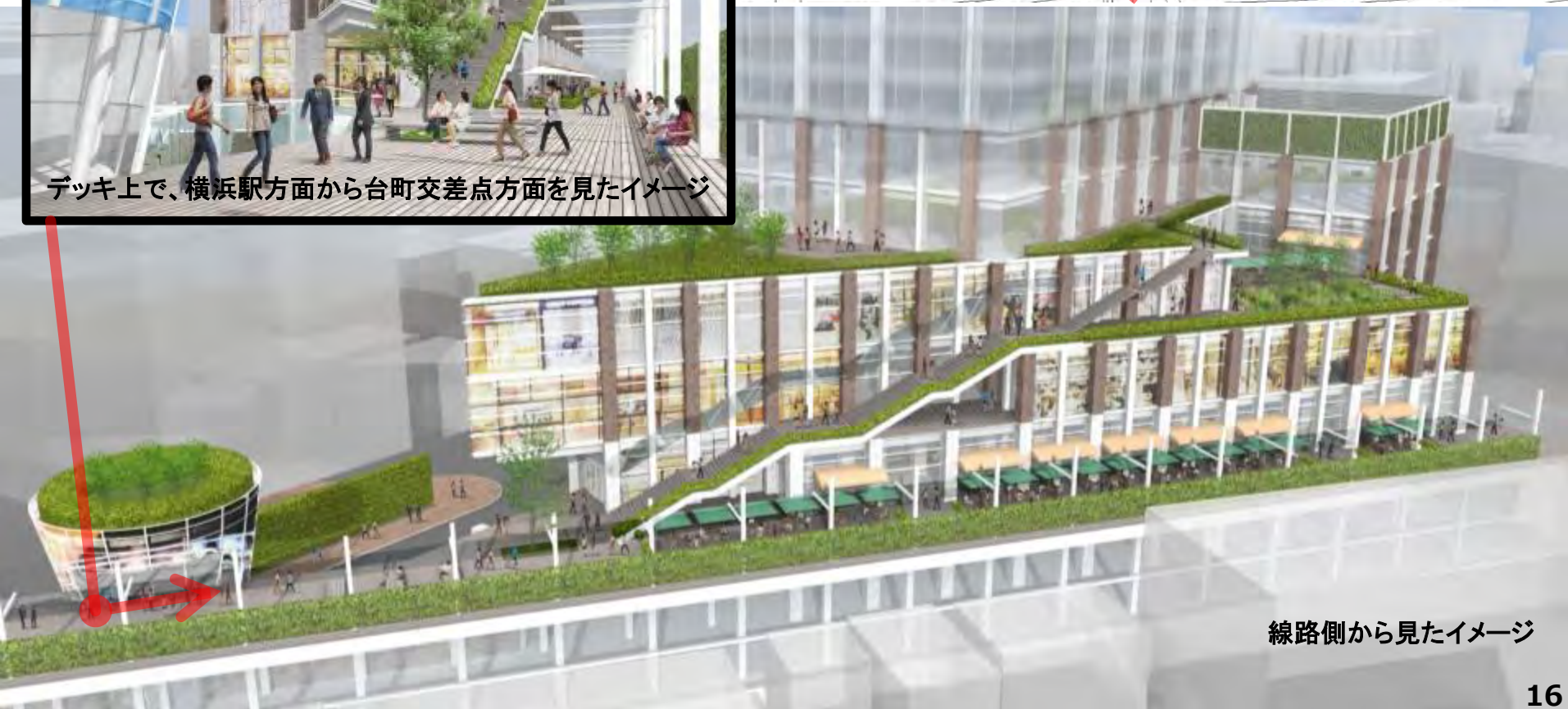
イメージ写真

国家戦略特区（きた西口鶴屋地区）

- ・平成28年9月の国家戦略特別区域 諮問会議を経て、内閣総理大臣の認定（都市計画が決定・変更）を受け、事業がスタートしました。
- ・現在、再開発組合の設立に向けて、手続きを進めています。
- ・平成33年度の工事竣工を予定しています。



国家戦略特区（きた西口鶴屋地区）



※図は、現時点で想定しているイメージであり、今後変更する場合があります。

東 口

- ・ 東口基盤整備
- ・ 横浜駅東口地区（ステーションオアシス）
- ・ 東口の動き（平成29年度）
- ・ バイクォーターウォーク屋根設置

東口基盤整備（東口再編のコンセプト）

Open Sky Terminal



横浜の顔として魅力ある空間

- 横浜の観光拠点としての印象に残る景観づくり
- 国際的で多様な交流の生まれる憩いのスペース
- 立体的な一体感を持ち、空への広がりを感じる駅空間

災害にも安全安心な空間

- デッキレベルによる見通しのよい避難動線
- 避難場所として認知しやすい空間
- わかりやすくバリアのない歩行者動線

国際空港直結・世界への玄関口

- 羽田空港のアクセス強化
- 来街者にもわかりやすいユニバーサルな乗継動線
- 横浜都心臨海部全体へ案内するゲート機能

東口基盤整備（機能配置の基本的な方針）

コンセプトを実現する 駅前広場のイメージ

国際空港直結・世界への玄関口



鉄道駅直結の
大阪駅バスターミナ
ル



災害にも安全安心なまち



新横浜駅前のデッキ空間

横浜の顔として魅力ある空間



ドイツ ベルリン中央駅

機能配置の 基本的な方針

地上
レベル

鉄道との接続（鉄道、車、人）
国道1号、首都高との接続

デッキ
レベル

Open Sky Terminal
見通しのよさ、
周辺商業とのつながり
海側から山側への避難

地下
レベル

周辺商業とのつながり

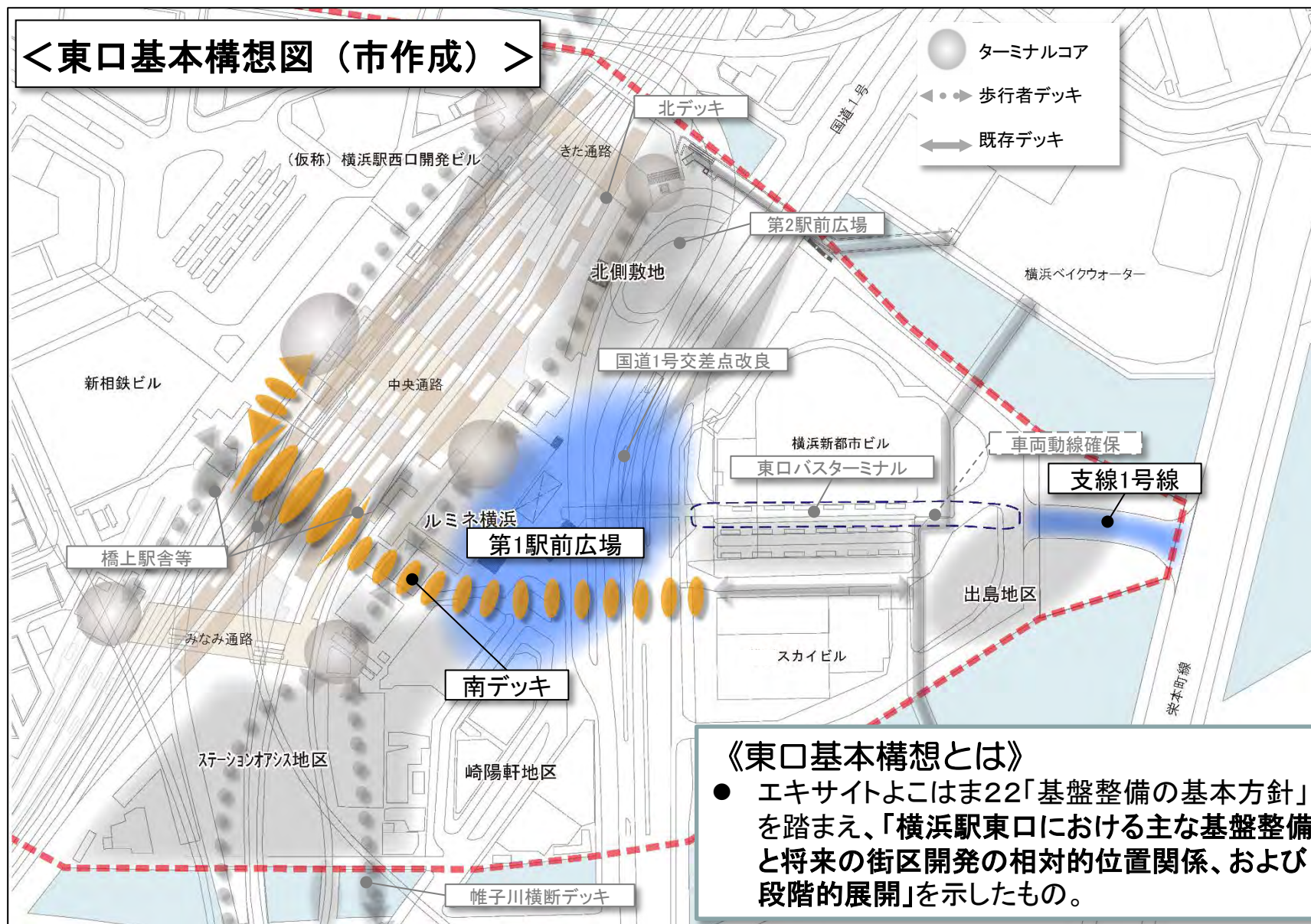
一般的に駅前広場は以下のような機能を持つ空間で構成される。（機能は「駅前広場計画指針」より）

駅前広場の空間構成要素

機 能	東口駅前広場への導入機能
交通空間	交通手段の乗換拠点として鉄道と多様な交通手段をつなぐ
	①交通結節機能 <ul style="list-style-type: none">・空港連絡バス・都心臨海部回遊バス・高速バス・路線バス・タクシー・LRTなどの新たな交通
広場空間	都市（地区）の拠点を形成する
	②市街地拠点機能 <ul style="list-style-type: none">・わかりやすくバリアのない歩行者動線・駅とまちをつなぐシンボリックな歩行者空間 など
	憩い・集い・語らいの中心となる
	③交流機能 <ul style="list-style-type: none">・歩行者滞留空間・民間開発と連続した賑わい空間 など
	公共的サービスを提供・各種情報を提供する
	④サービス機能 <ul style="list-style-type: none">・観光や交通運行などの情報提供施設・災害時の避難情報等の提供施設 など
	都市の顔としての景観を形成
	⑤景観・環境機能 <ul style="list-style-type: none">・「横浜らしさ」を象徴する景観形成 など
	防災活動の拠点となる一避難・緊急活動
	⑥防災機能 <ul style="list-style-type: none">・わかりやすく安全な避難動線 など

東口基盤整備（東口基本構想）

<東口基本構想図（市作成）>

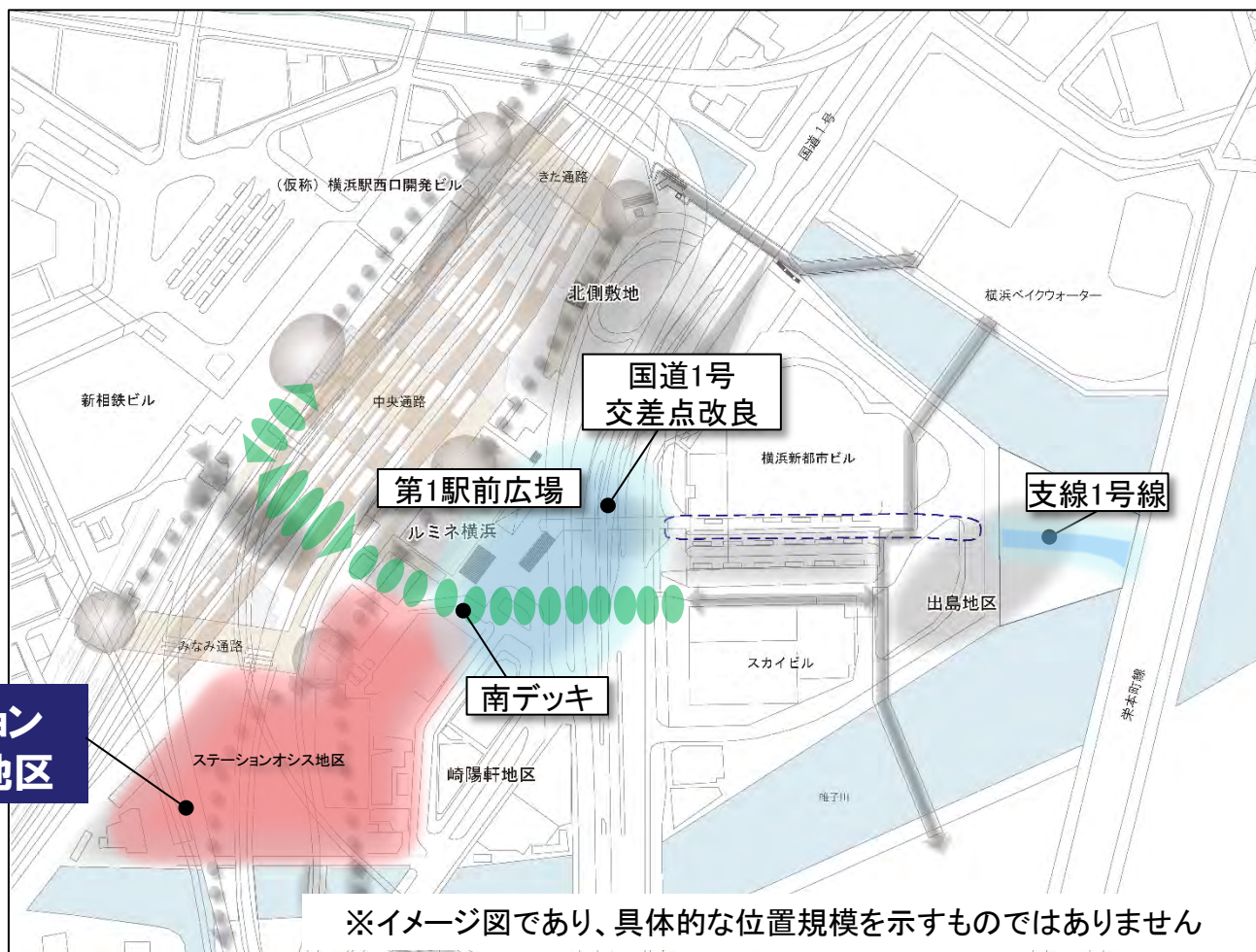


《東口基本構想とは》

- エキサイトよこはま22「基盤整備の基本方針」を踏まえ、「横浜駅東口における主な基盤整備と将来の街区開発の相対的位置関係、および段階的展開」を示したもの。

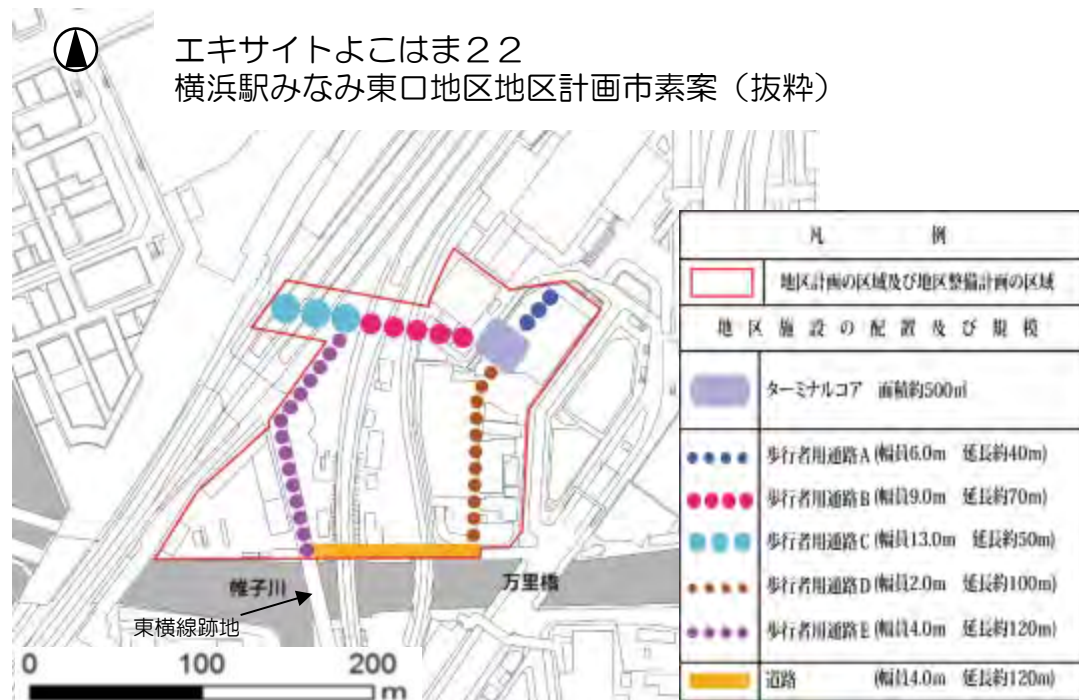
横浜駅東口地区（ステーションオアシス）

- 横浜駅東口地区開発推進協議会（日本郵政グループ、東日本旅客鉄道、京浜急行電鉄、横浜市）で、検討が進められています。
- 国際都市の玄関口にふさわしい魅力とにぎわいのある都市空間の形成等のために、土地の高度利用（用途：商業、業務、宿泊等）を図ります。

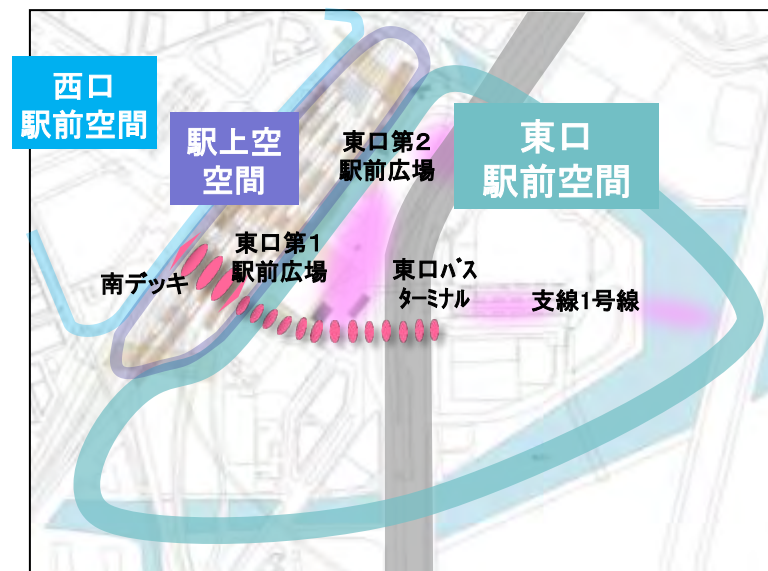


東口の動き（平成29年度）

○ステーションオアシス地区を含む「横浜駅みなみ東口地区地区計画」について、平成29年度中の都市計画決定を目指して手続きを進めています。



○東口駅前空間に関する勉強会を開催し、地区別のガイドラインを定めるための検討を行います。



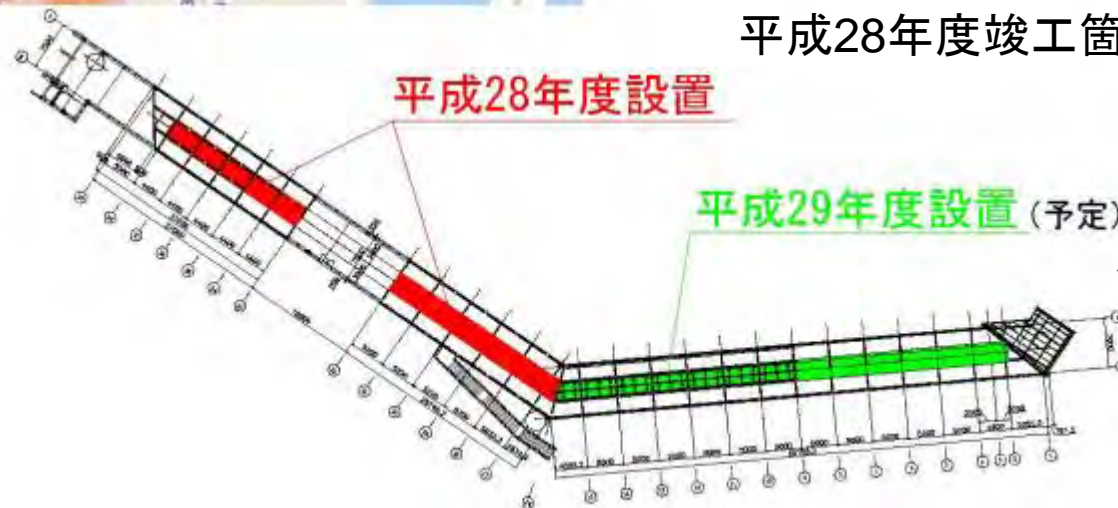
バイクォーターウォーク屋根設置

○ 横浜駅きた東口からポートサイド地区に渡るバイクォーターウォークにおいて中央部分の屋根を設置する工事を実施しています。



平成28年度竣工箇所写真

横浜駅側



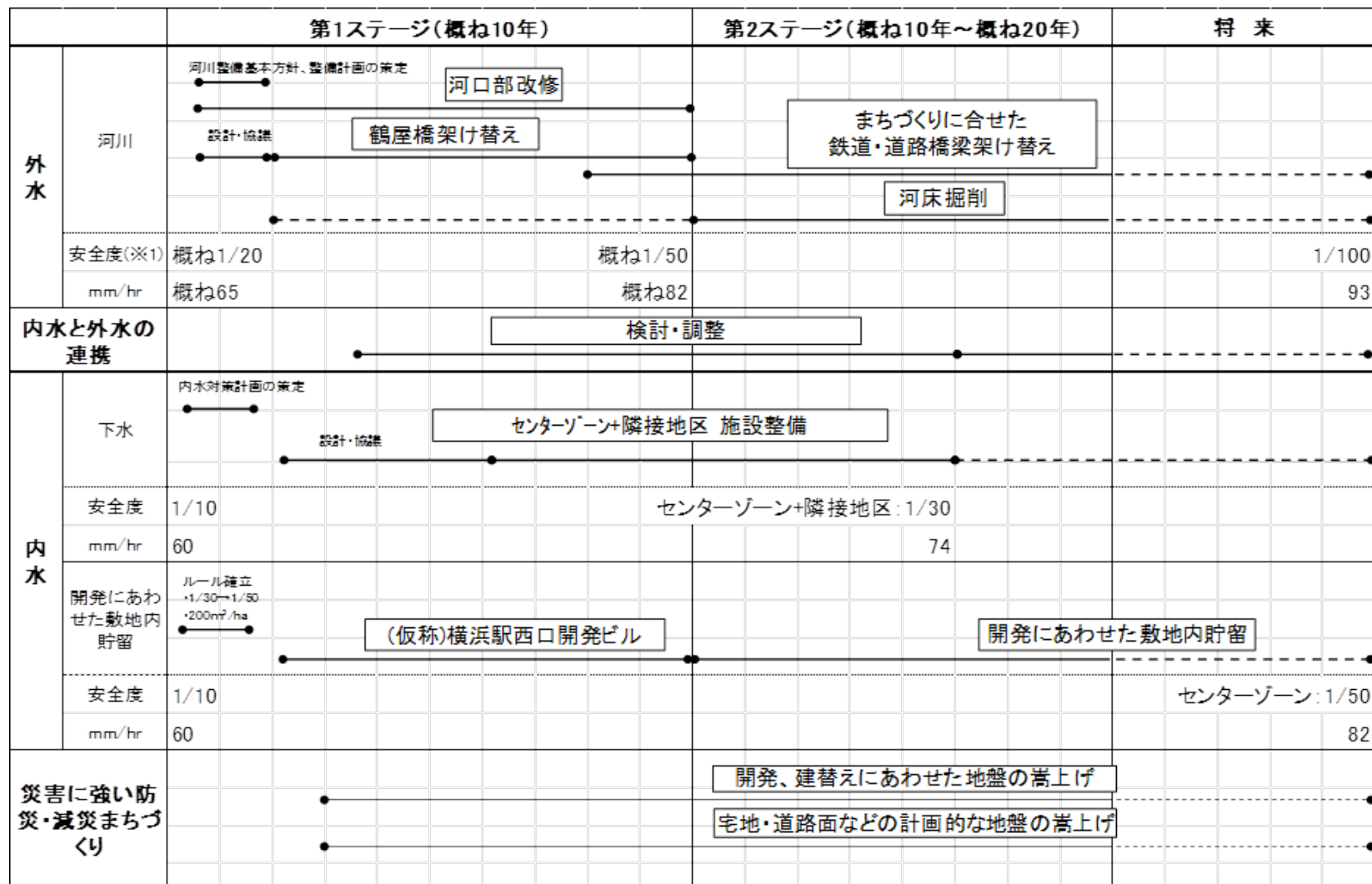
バイクォーター側

横浜駅周辺地区全体

- ・治水対策（内水、橋梁架け替え）
- ・横浜市特定地域都市浸水被害対策事業
- ・駐車場整備ルール運用マニュアル
- ・防災の取組
- ・エリアマネジメントの推進
- ・地域の活動
- ・公共空間の活用によるまちの賑わいづくり

治水対策

地下街等、商業施設が集積する東西のセンターゾーンの内水対策に官民連携で取り組みます。
 公共下水道の整備により時間74ミリの降雨(概ね30年に1度の確率で発生する降雨)に対応、さらに民間貯留施設の整備と併せて時間82ミリの降雨(概ね50年に1度の確率で発生する降雨)に対応した内水対策に取り組みます。



※1 河川の治水安全度は、横浜駅周辺(西口)における流下能力を示す。

流域全体の治水安全度向上に向けては、河床掘削のための橋梁部の対策が必要。

治水対策（橋梁架け替え）

桁下が河川の計画高水位より低い橋梁については、橋梁の架け替えに取り組みます。
帷子川本川の橋梁群では、まず京急本線帷子川橋梁及び石崎川第一橋梁の架け替えに取り組みます。



横浜市特定地域都市浸水被害対策事業

○横浜駅周辺地区特定地域都市浸水被害対策事業の取組

(※下水道法改正により国土交通省が創設した「浸水被害対策区域制度」を活用した国内初の取組)

1. 事業の目的

横浜駅周辺のまちづくり計画(エキサイトよこはま22)に合わせ、横浜駅周辺地区の浸水被害の防止を目指します。具体的取組としては、計画対象区域内に時間74ミリの降雨に対応する公共下水道を整備し、将来的には民間事業者による雨水貯留施設等の整備と併せて、官民が連携して時間82ミリの降雨への対応を目指します。

2. 事業の位置

計画対象区域:横浜駅周辺地区(次頁参照)

3. 事業内容及び年度計画

(1) 事業内容

- ・公共下水道施設:浸水対策計画策定、新規幹線・ポンプ場等整備事業、計画対象区域の浸水被害の防止に寄与する再整備・再構築事業等
- ・民間事業施設:雨水貯留施設等の設置

(2) 年度計画

		H29	H30	H31	H32	H33	将来
公共下水道施設	新規幹線・ポンプ場等						※1
	再整備・再構築等						※1
民間事業者による雨水貯留施設等					※2		
		(仮称)横浜駅西口開発ビル					

※1 本事業は、平成34年度以降も継続して取り組みます。

※2 本事業は、想定される民間開発の中で、継続して取り組みます。

横浜市特定地域都市浸水被害対策事業

横浜駅周辺のまちづくり計画「エキサイトよこはま22」における内水対策

資料1



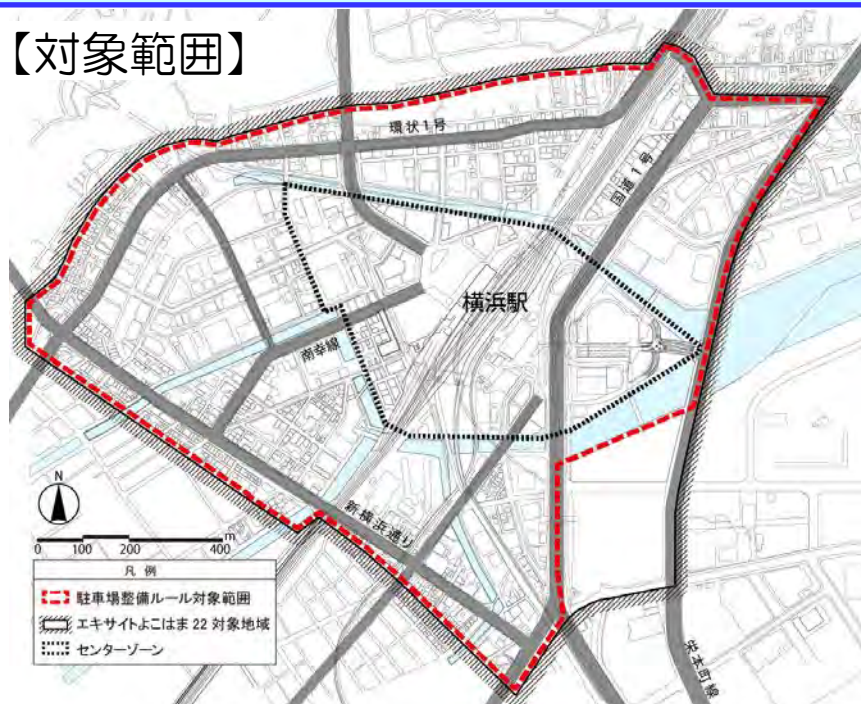
雨水貯留施設等の設置
(仮称)横浜駅西口開発ビル



駐車場整備ルール運用マニュアル

駐車場整備ルールにより、駐車場整備台数や駐車場配置の適正化など、開発等に併せた適切な駐車場整備を誘導

【対象範囲】



【ルールの内容（できること）】

- ・ 開発に伴う必要駐車場台数の弾力的な設定（駐車場台数の適正化）
- ・ 敷地外駐車場も含めた柔軟な駐車場台数の確保（駐車場の隔地配置）

【ルール適用の条件】

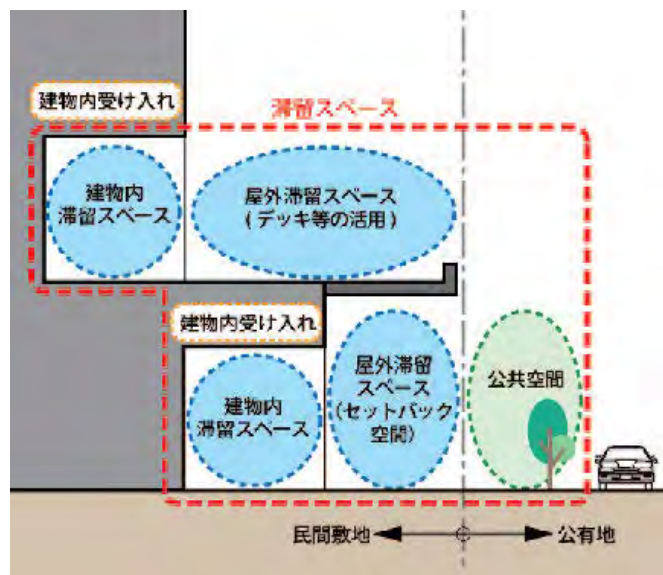
- ・ 駐車場連携や公共交通利用促進等の駐車場マネジメントの取組を実施

駐車場整備ルール運用マニュアル（平成26年度一部改正）について、構成の見直しなど、より運用しやすい内容への改訂に取り組みます。

改訂にあたっては、エキサイトよこはま22ホームページで公表します。

**民間と行政が連携した地震や水害などの災害に強い
防災・減災まちづくりの取組を行っています。**

- ・ 滞留者・帰宅困難者の受け入れ
- ・ 津波避難施設としての協定締結
- ・ 安全で速やかな避難のためのデッキレベルでの退避経路の確保
- ・ 災害情報等提供のためのデジタルサイネージなど情報端末の整備



滞留者等受入・避難経路(デッキ)概要図



デジタルサイネージ
(イメージ)

○ラグビーワールドカップ2019™ プレイメントに向けた 横浜駅周辺のインバウンド対策検討

- ・案内サイン更新ルールの検討
- ・Wi-Fiの整備推進方法の検討



<案内サイン>

エリアマネジメントの推進

①「はまマネ協議会」の各団体イベントに対する支援

＜横浜駅東口はまテラス有効活用委員会＞



＜横浜西口元気プロジェクト＞



②「はまマネ協議会」によるイベントの開催

＜津波浸水域ウォーク＞



＜東口クリーンアップイベント＞



＜西口クリーンアップイベント＞



企業様による清掃・美化活動



自治会様などによる清掃活動



公共空間の活用によるまちの賑わいづくり

公共空間をオープンカフェやイベント等で活用することで街のにぎわいを創出できるよう取り組みます。



**みなみ西口
(平成29年度整備予定)**



パルナード通り